

## 2025年度 授業コード: 21101500

授業科目	臨床健康心理学				実務家教員担当科目	-					
単位	1	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	水貝 洵子										
授業概要	<p>臨床健康心理学は、ひとの身体と心の健康に関する心理学知識や心理学支援についての学問である。授業の前半では、身体と心の密接な関係性を踏まえ、人の健康状態をどのように捉えるのかについて心理学の立場から解説する。</p> <p>授業の後半は、身体疾患や身体的不調を抱える人を対象とした主に医療領域における心理支援について学習する。</p>										
授業形態	対面授業			授業方法	ディスカッション グループワーク						
<b>学生が達成すべき行動目標</b>											
標準的レベル	<p>1. 身体と心の密接なつながりについて説明することができる。</p> <p>2. 人の健康状態を捉える視点について説明することができる。</p> <p>3. 医療領域における対象者の心理的理解や心理支援について、心理療法ごとの特色や支援過程について説明することができる。</p>										
理想的レベル	<p>標準的レベルに加え、人の健康状態や健康に関する問題について、心理社会的な視点も踏まえ、総合的に捉えることができるようになる。</p> <p>さらに、人々の健康のための支援について、心理学的な視点から考えることができる。</p>										
<b>評価方法・評価割合</b>											
評価方法		評価割合 (数値)				備考					
試験		70									
小テスト											
レポート		20									
発表 (口頭、プレゼンテーション)											
レポート外の提出物											
その他		10				授業への参加姿勢					
<b>カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング</b>											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU11117J
<b>学習課題 (予習・復習)</b>										1回の目安時間 (時間)	
該当箇所の復習										4	
<b>授業計画</b>											
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション</p> <p>授業のオリエンテーションを行う。その後、臨床健康心理学が確立された目的や経緯、その対象などについて解説する。</p>										
第2回	<p>テーマ：生物心理社会モデル</p> <p>ひとの健康を捉えるモデルとして生物心理社会モデルを取り上げ、概要を解説する。適宜、個人ワークを実施し、心理社会的視点も含めて総合的に人の健康を捉えることの意義について検討する。</p>										

第3回	<p>テーマ：心身相関</p> <p>乳幼児期から児童期の社会性や認知の発達において、身体や身体感覚が果たす役割について解説する。また、人の思考や判断などの認知活動や精神的健康と身体との密接な関係性について解説する。適宜、個人ワークおよびグループワークを実施する。</p>
第4回	<p>テーマ：医療領域における対象者の心理的理解</p> <p>急性期、回復期、慢性期、終末期の経過別に、対象者やその家族が抱きやすい感情などの心理的傾向について解説する。</p>
第5回	<p>テーマ：医療領域における心理支援1</p> <p>心理療法のひとつである来談者中心療法を取り上げる。医療領域における来談者中心療法に基づいた心理支援の事例を提示しながら、支援過程や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングによるグループワークを行う。</p>
第6回	<p>テーマ：医療領域における心理支援2</p> <p>心理療法のひとつである解決志向療法を取り上げる。医療領域における解決志向療法に基づいた心理支援の事例を提示しながら、支援過程や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングによるグループワークを行う。</p>
第7回	<p>テーマ：医療領域における心理支援3</p> <p>心理療法のひとつである認知療法を取り上げる。医療領域における認知療法に基づいた心理支援の事例を提示しながら、支援過程や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはグループワークを行う。</p>
第8回	<p>テーマ：医療領域における心理支援4</p> <p>心理療法のひとつである応用行動分析を取り上げる。医療領域における応用行動分析に基づいた心理支援の事例を提示しながら、支援過程や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはグループワークを行う。</p>
テキスト	授業中に適宜、レジュメ等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>野口普子（編集）野口普子・矢澤美香子・成澤知美・佐々木洋平・吉田卓矢・遠藤香（著）（2017）．「看護と倫理 患者の心理 第3版」メヂカルフレンド社。</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問やコメントは、適宜授業内で紹介をして回答を示す。
学生へのメッセージ・コメント	授業中に実施する個人ワークやグループワークに積極的に参加する姿勢が求められる。